

講中お知らせ

令和3年2021 五月号

発行人 桐本昌吾 / デザイン 玉置實 * 記事・画像の copy・download 転載引用等は禁じます。法華講宝相寺支部「講中お知らせ」編集室 0739-22-2232

■御法主日如上人猥下御指南

○謗法の害毒によって苦しんでいる人達を見て、折伏もせず、謗法を責めようともしなければ、大聖人様の御本意に違ふことになり、正しい信心の實踐とはならないのであります。大聖人様の教えのままに、正しい信心の道に連なってこそ、一生成仏も初めてかなうのであります。(大日蓮・令和二年一月号)

○病はただ単に不幸なことではなく、むしろ罪障消滅と変毒為薬の好機と受け止め、成仏の大願を成就するため仏道修行に一層励んでいくことが大事であります。


○命は三世に亘っているのですから、死を恐れず、どのような大病であっても泰然として受け止め、今は未来永劫に亘る功德善根を積む時であると心得て、自身はもとより家族・親族一同の信心までも共どもに高めていくことが大切です。

○謗法という「極大重病」は、拝読御文の後段に「あまりに病おもきゆへに、我が身にもおぼへず人もしらぬ病なり」(900頁)と仰せられるように、それに気付くことがきわめて難しいのです。

○『呵責謗法滅罪抄』に、「謗法は(中略)始めは緩やかに後漸々(ぜんぜん)に大事なり」(同711頁)と示されているように、初めは無事なように見えても、気付いた時には取り返しのつかない大きな不幸が我が身を襲うこととなります。

○「南無妙法蓮華経は師子吼の如し。いかなる病さはりをなすべきや」(経王殿御返事・同六八五)と仰せのお題目を、自らが唱え、また他の人にも唱えさせてあげるといふ、自行化他の信心の實踐にあります。私達は本年の支部折伏誓願目標の完遂を目指し、折伏と育成に励むところに大聖人の弟子檀那としての信行があると肝に銘じ、さらなる広布前進のため精進致しましょう。

□まとめ
大聖人は「妙とは蘇生の義なり。蘇生と申すはよみがへる義なり」(法華題目抄 360頁)と示され、また「やまいある人は、法華経をくやうすれば身のやまい うすれ、いろまさり、ちからつき」(上野殿御返事 751頁)とも仰せられて、妙法の絶大な功德を示されています。私達はこうした御金言を身に体し、大聖人御生誕八百年を迎えた今こそ、互いに新たな出発を期して、どこまでも本門戒壇の大御本尊への絶対信を堅持し、唯授一人の血脈御所持の 御法主上人猥下の御指南のまま、力強く広布の大道を歩んでまいりましょう。



令和三年五月度 御報恩御講

『妙心尼御前御返事』 建治元年八月十六日 五十四歳

病によりて道心はおこり候か。

又一切の病の中には五逆罪と一闡提と謗法をこそ、おもき病とは仏はいたませ給へ。(御書九〇〇ページ一四行目)

浄名経・涅槃経には病ある人、仏になるべきよしとかれて候。

■浄名経や涅槃経には、病のある人は仏になることができる旨が説かれている。病によって道心(信心)がおこるゆえである。また一切の病の中で、五逆罪と一闡提と謗法こそが 重い病であると仏は心をいためられている。今の日本国の人一人も漏れることなく極大重病である。いわゆる大謗法という重病である。

一◆「心」の三回目です。■「私の心」は、五識=認識で向上です。●天使の赤ちゃんが、反抗期も無事過ぎて、アラ~不思議「誰が産んでくれと頼んだヨ~」と減らず口をタタク。それも一つの、成長なんだけどネ~^^;▼「アンタが勝手に来たんでシヨ。それも親を選んでサア~^^;」ここが自他の因縁による「生命のしくみ」「生命のプログラム」なんです。さて、貴方の「生命」はどこからオイデになられましたかナア~^^;→それが図3です。

二◆一切の「生命活動」は、認識→判断→行動→心→我・業と、ナノレベルで瞬時にクルクルと繰り返されています。■無意識下ではパソコンの記憶装置のように、蓄積され、書き換えられています。繰り返されるとは、身心に展開される輪廻です。ここは、中学校で習う「エネルギー保存の法則」です。

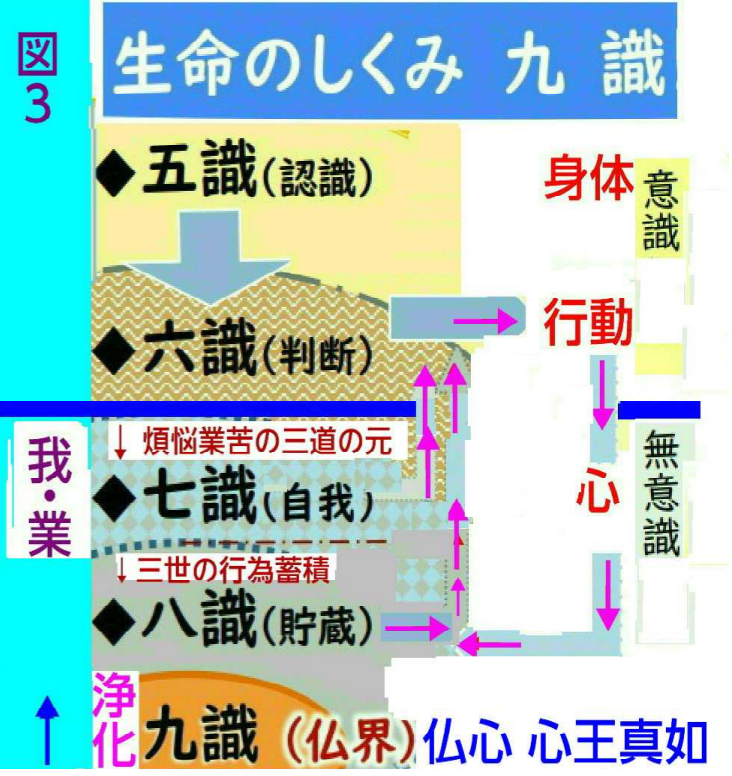
◆大聖人は「此即ち母の赤子の口に乳を入れんとはげむ慈悲なり。」(諫曉八幡抄 1539 頁)と、「仏の大慈大悲」を仰せです。

◆赤ちゃんも乳を飲め無いと大変なのです。識は乳のように、人間に欠かせない大切な心、判断の元となる認識=心です。■乳を飲むのは成長の為の「生命のプログラム」です。●「成仏」にも「仏の大慈大悲」の乳が欠かせません。「仏心」とはこの根底です。ですから「喜」「楽」の人生には「仏心」との出逢いが欠かせないのです。▼スマートホンも電池が切れるとストップです。何としても「仏心」を求め、充電しリセットするのが貴方の人生です。

◆世界を知る為の第一歩、心=認識が歪んでいてはダメです。■「生命活動」はプログラムされた、三毒強情である煩惱の命でもあります。「生命活動」の一面には「六道輪廻」があるのです。●「生きる事」は単純でも簡単でも有りません。憎悪・憤懣(ふんまん)が身心に累積しても、それでも貴方は「しぶとく」生きるのです。この「我」が、人間社会のイジメや差別の元ともなるのですから「生命活動」とは複雑なのです。■五識→六識で、判断と行動です。ここが三毒満々の妄想だけだと「六道輪廻」です。結果、兵士の戦争後遺症です。「人間止めますか?」は身心に過酷であり「成仏」から遠いのです。▼大聖人は、この度人間として産まれたからには「六道輪廻」では無く、「貴方の命」に「仏心」が立てられるように信行なさいと諭されるのです。

三■『法華経・法師功德品第十九』「是の功德を以て、六根を莊嚴(しょうごん)して、皆清浄ならしめん。」(法華経 478 頁)
■大聖人「功德とは六根清浄(ろっこんしょうじょう)の果報なり。(中略)悪を滅するを功と云(い)ひ、善を生ずるを徳と云ふなり。功德とは即身成仏(そくしん-じょうぶつ)なり」(御義口伝-法師功德品四箇(しか)の大事 1775 頁)と仰せです。
■御法主日如上人猥下「六根清浄の果報は、末法は一切衆生救済の御本仏である宗祖大聖人様の法華本門寿量文底の下種仏法によって 初めてかなえられるのであります。」(御指南集② 二十三頁)と、「六根清浄の果報」は法華本門寿量文底の下種仏法の信行の功德と、ズバリと御指南されておられます。

◆私達は御本尊に御供養や御供物を御供えします。先祖供養も行います。これらは総じて「六根→



→清浄」の果報「成仏の功德」を積む、信心・修行の振る舞いです。ここを分に応じて、各自が行う「志=心の世界」は、大聖人仰せの、我が心の浄化の力、「仏心」の働きなのです。

四◆図3の無意識は、いつも忘れていた世界です。ですが、テレビでしか見たことが無いユウレイが、私は怖いのです。このように五識・六識は七識・八識と交互影響しています。■ですから、誰でも人殺しはイヤですよ。デモネ本当にそうですか?▼だから人間は戦争が止められないのです。▼この「生命活動」は善悪不二で、自動的に貴方の心に「煩惱」としてプログラム済みです。▼煩惱は無くなりません。無くしてはダメなのです。■「煩惱」は「仏心」で尽くして蘇生し、変毒為薬するのです。

◆さて、元々凡夫は迷妄です。信行に必要な「私の心」の人々の集合が世界です。手前勝手に「私・我」の妄想を主張するのは。■ですからこのままでは世界は自滅です。これは妄想ですか? 実際「米中対立」は、香港やミャンマーだけではなく各国を巻き込む地球の問題です。「戦術核」は現実です。人間の心から「無明」を正すべきなのです。一切は「立正」に向くべきなのです。

◆「一切の生きとし生けるもの」の生命の危機を回避し、地球浄化の力を支えているのが、「仏心」です。■私たち日蓮正宗の信仰者は、先ず「我心」を「仏心」に蘇生させるべき「一人の信行」を行っているのです。●それは「一切の生命世界」を救済して行く「一人の心」の信行です。▼それが「生死一大事の因縁」=私達の使命です。

◆大聖人は、一切の生命の「浄化の智慧」が「仏心」であり、南無妙法蓮華経であり、仏の大慈大悲であるとされて「是れを九識心王真如の都(くしきしんのう-しんによのみやこ)」(日女御前御返事 1388 頁)と御教示なされております。